

製品名: ASIC1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07216**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:200,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	70-75kDa

抗原情報

遺伝子名	ASIC1 ACCN2 BNAC2
別名	Acid-sensing ion channel 1 (ASIC1;Amiloride-sensitive cation channel 2, neuronal;Brain sodium channel 2;BNAc2)
遺伝子 ID	41.0
SwissProt ID	P78348
免疫原	アミノ酸範囲 220~280 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

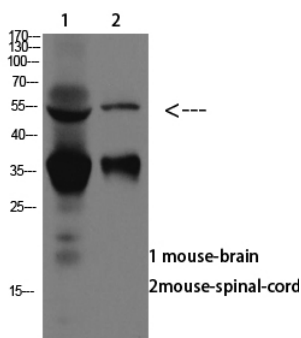
背景

この遺伝子は、酸感受性イオンチャネル（ASIC）ファミリーのタンパク質のメンバーをコードしており、このタンパク質はデジェネ

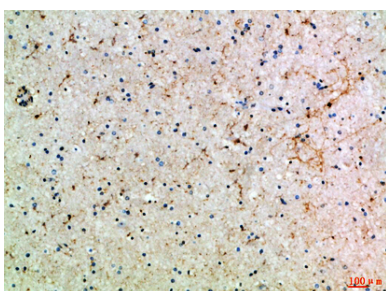
リン/上皮性ナトリウムチャンネル (DEG/ENaC) スーパーファミリーの一部です。ASICファミリーのメンバーはアミロライドに感受性があり、神経伝達において機能します。コードされているタンパク質は、学習、痛みの伝達、触覚、記憶と恐怖の発達において機能します。選択的スプライシングされた転写バリエーションが記載されています。[RefSeq提供、2012年2月]、代替製品:マウスとラットで説明されているASIC1aのスプライスバリエーションは、異なるN末端を持つアイソフォーム (Asic1b) を生じますが、ヒトには存在しないようです。機能:ナトリウムに対する親和性の高いカチオンチャンネルで、細胞外プロトンによって制御され、利尿薬アミロライドによって阻害されます。Ca(2+)、Li(+)、K(+))も透過します。急速に不活性化する相とゆっくりと持続する相を持つ二相性電流を生成する。アシドーシス時にグルタミン酸非依存性Ca(2+)のニューロンへの流入を媒介する。このCa(2+)過負荷は皮質ニューロンに毒性を及ぼし、虚血性脳障害の一因となっている可能性がある。ヘテロ多量体チャンネルの集合がチャンネル特性を調節すると考えられる。シナプス後プロトン受容体として機能し、細胞内Ca(2+)濃度とカルモジュリン依存性プロテインキナーゼIIのリン酸化に作用し、樹状突起棘の密度を変化させる。生得的な恐怖の根底にある回路の活動を調節する。、その他: Ca(2+)、Mg(2+)、Ba(2+)、および多価陽イオンによって増強される。サリチル酸などの抗炎症薬によって阻害される (類似性による)。FMRFアミド関連神経ペプチドによって増強される。PH依存性はセリンプロテアーゼによって制御されている可能性がある。、PTM: PKAによるリン酸化はPRKCABPとの相互作用および細胞内局在を制御する。PKCによるリン酸化はチャンネルを制御する可能性がある。、類似性: アミロライド感受性ナトリウムチャンネルファミリーに属する。、細胞内局在: ニューロンの樹状突起シナプスにおけるシナプトソームに局在する。DLG4と共局在する。、サブユニット: 他のASICタンパク質とホモ四量体またはヘテロ四量体を形成する (可能性が高い)。STOMおよびACCN1と相互作用する (類似性による)。PRKCABPと相互作用する。、組織特異性: ほとんどまたはすべてのニューロンで発現する。、

研究分野

画像データ



SW480 ライセートのウェスタンブロット分析、抗体は 1000 倍に希釈した。二次抗体は 1:20000 倍に希釈した。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された

